

新年明けましておめでとうございます。日に日に寒さが厳しくなり、雪もちらつく季節ですが、皆様、体調の方はいかがですか？今年『失語症』をテーマにお話していきますので、お付き合いのほど、よろしくお願い致します。

今回のテーマ

失語症について



失語症とは？

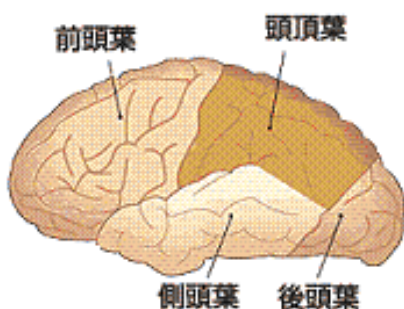
失語症とは、それまで健常にも働いていた脳に、脳卒中や脳外傷が起こり、言語中枢が傷ついたために生じる言語機能の障害です。

ことばを理解したり、ことばで表現したりするのは脳の**言語中枢**という部分の働きです。一般的に言語中枢は**脳の左側**に位置しています。脳卒中や事故などで、この言語中枢が損傷されると、これまで正常に行われていた言語(ことば)の活動に障害が起こります。

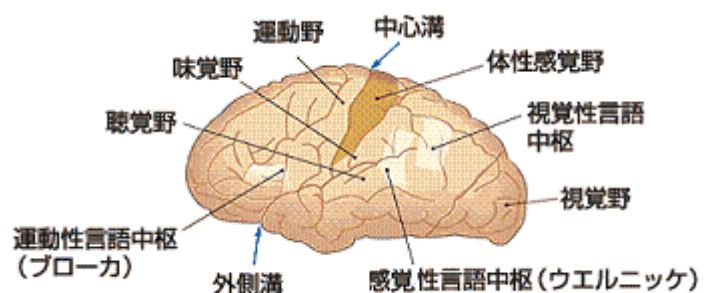
言語機能というのは、話し言葉ばかりでなく、文字の読み書きも含まれます。そのため、失語症になると言葉を「**聴く**」「**話す**」「**読む**」「**書く**」さらに「**計算**」などが病前のようにはできなくなります。このために**コミュニケーションの困難**が生じます。

しかしながら、失語症は話し言葉と文字の読み書きに局限した障害なので、**目で見てわかる状況判断、人の判別、生活や動作の記憶、人格などは保たれており**、認知症とは症状の異なる障害です。

<図: 大脳半球側面・言語中枢>



Copyright(C) HOUKEN CORR. All Rights Reserved.



Copyright(C) HOUKEN CORR. All Rights Reserved.



失語症の症状

失語症の症状は、一人ひとりの患者様ごとに異なります。失語症では聞く・話す・読む・書く・計算すべての言語様式に障害が及びますが、言語様式ごとの障害の程度は一樣ではありません。例えば、「耳で聞こえているのに、言葉の意味が理解できない」「言葉の理解は良いのに、話そうとすると言葉が思い出せない」「考えることはできて、口も動くのに、話ができない」「目が見えて、手が動くのに、文字の読み書きができない」といったように、言語様式によって障害の内容や程度に差が生じます。

その原因は、脳の損傷がどの部位で起こり、言語機能に関わる部位のどこが損傷を受けたかによって異なってくるのです。

話しことばへの影響



『失語症の人と話そう』 地域ST連絡会より引用

言いたいことが頭に浮かんでいるのに、ことばが出てこないことを**喚語困難**といいます。これは程度の差はあるものの、全ての患者様に認められます。また、言おうとしたことばが他のことばに置き換えられたり、音の一部分を誤る症状もみられ、これを**錯語**といいます。「眼鏡」と言いたい時に「時計」というように、別のことばに置き換わってしまう**語性錯語**と、「めがね」と言いたい時に「めがれ」というように、一部の音が変わってしまう**字性錯語**があります。さらにほとんどの音が変わってしまい、日本語にないことば(**新造語**)になることや、錯語や新造語が連続してわけのわからないことばになってしまうこと(**ジャーゴン**)もあります。

理解面への影響



『失語症の人と話そう』 地域ST連絡会より引用

音はよく聞こえているのに、それがどういう意味なのかわからなくなることがあります。私たちが外国語を聞いている時の状態と似ているかもしれません。早口や長く複雑な話は、さらに理解しにくくなります。また、**文字を読んでもその意味が理解できない**ことがあります。漢字の方が仮名よりもわかりやすい傾向があります。その理由として、漢字は一つ一つの文字が意味を持っているためです。

書字面への影響



『失語症の人と話そう』 地域ST連絡会より引用

書字は他の言語側面に比べて困難なことが多くあります。**文字を思い出せない、書き誤る、助詞を間違える**といったことがみられます。話しことばと同様に漢字と仮名とで差のある場合があります。

その他の影響

失語症の症状は、患者様によってさまざまであり、**言語機能面のみならず、身体的・心理的・社会的など多くの面への影響**が生じてきます。そのため、失語症の方にとって、他者とのコミュニケーションが難しいことや、不安や苛立ちを抱えておられることを、周囲の人たちが理解し、支援していくことが大切なのです。

